

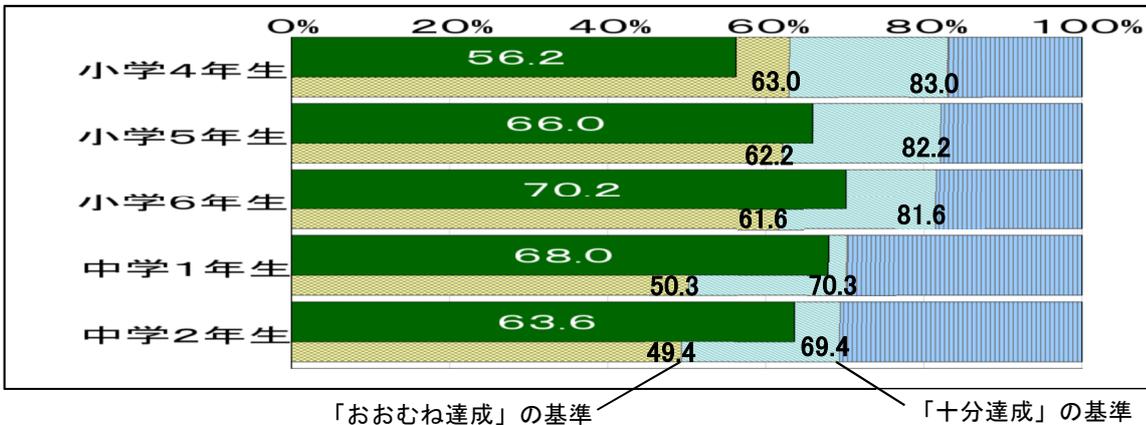
### Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

## 国 語

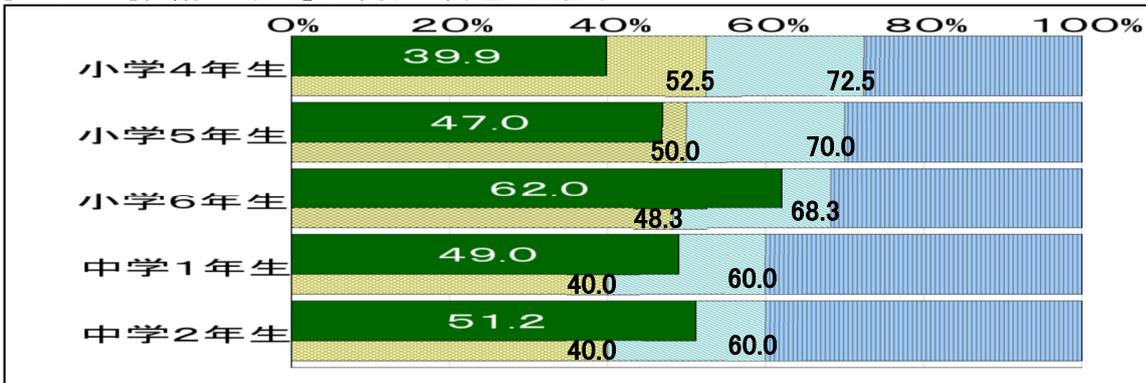
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学5年生と小学6年生、中学校の全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学4年生と小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、中学1年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「話す・聞く能力」については、小学5年生と小学6年生で「おおむね達成」の基準を上回り、中学1年生と中学2年生で「十分達成」の基準を上回っている。また、「話す・聞く能力」については、小学4年生、「書く能力」については、小学4年生と小学6年生、「読む能力」については、小学4年生と小学5年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「知識・理解・技能」については小学4年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～6]
- 内容・領域別に見ると、「漢字の読み」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っており、特に、小学5年生と小学6年生、中学1年生と中学2年生で「十分達成」の基準を上回っている。「漢字の書き」については、小学5年生、「語句に関する知識」については、小学4年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ7～11]

[グラフ1]国語 教科正答率



[グラフ2]国語 「活用」に関する問題の正答率

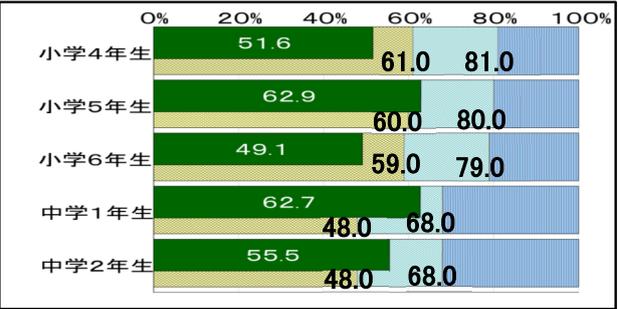


[グラフ3] 国語「話す・聞く能力」観点の正答率



「おおむね達成」の基準 「十分達成」の基準

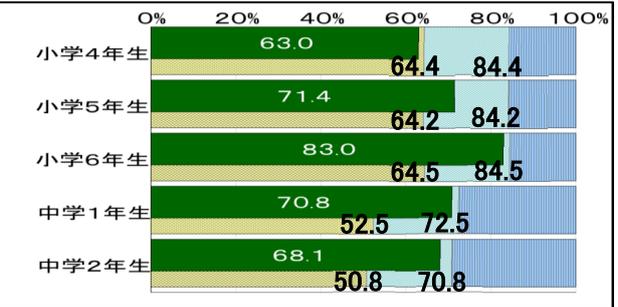
[グラフ4] 国語「書く能力」観点の正答率



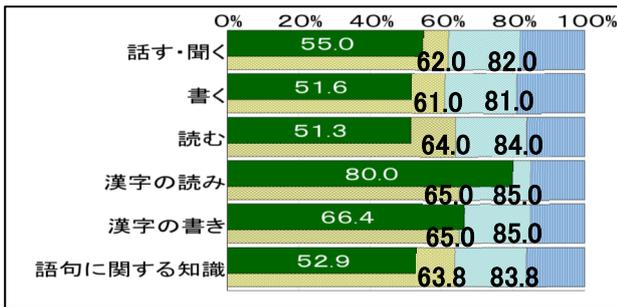
[グラフ5] 国語「読む能力」観点の正答率



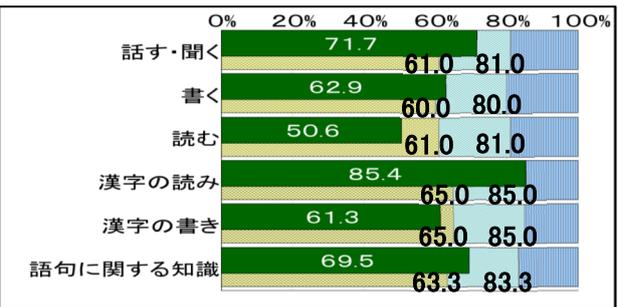
[グラフ6] 国語「知識・理解・技能」観点の正答率



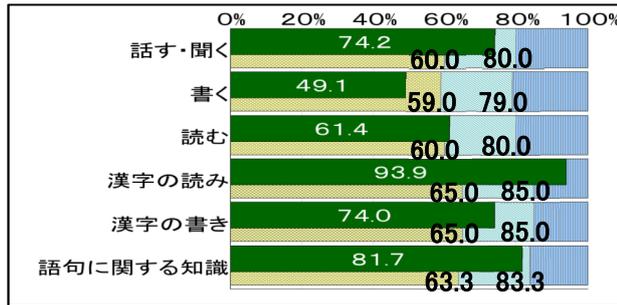
[グラフ7] 小学4年生 内容・領域別正答率



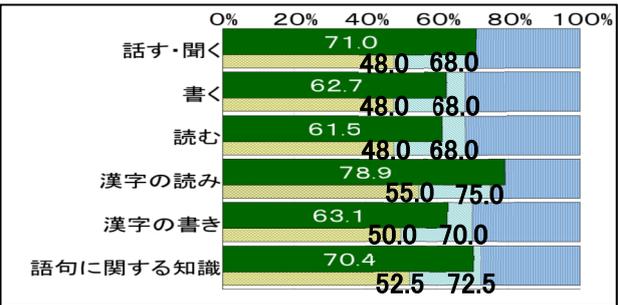
[グラフ8] 小学5年生 内容・領域別正答率



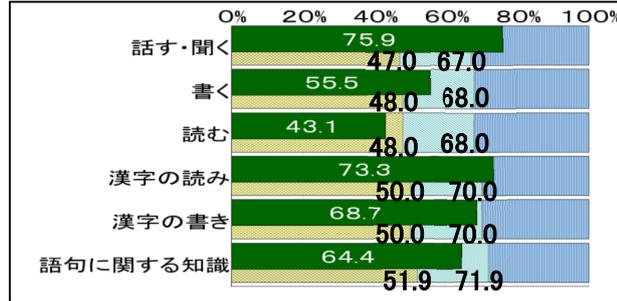
[グラフ9] 小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ10] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ11] 中学2年生 内容・領域別正答率



## (2) 成果と課題及び指導改善のポイント

### 小学校国語（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

#### 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 平成28年度[4月調査]で「おおむね達成」の基準を下回っていた内容・領域「話すこと・聞くこと」において、「おおむね達成」の基準を上回っており、改善の傾向が見られる。  
(小学5年生<sup>1</sup>)
- ◇ 平成28年度[4月調査]で4問中3問が「おおむね達成」の基準を下回っていた内容・領域「話すこと・聞くこと」において、5問中4問が「おおむね達成」の基準を上回り、そのうち2問は、「十分達成」の基準を上回っており、改善の傾向が見られる。  
(小学6年生<sup>1</sup>)
- ◇ 話の意図を捉えながら聞き、自分の考えと比べ、まとめたり適切に助言したりすることは相当数の児童ができている。  
(小学5年生<sup>1</sup>四2、小学6年生<sup>1</sup>二2)
- ◆ 1 メモや取材した内容などを整理したり複数の事実をまとめたりして書くことに課題が見られる。  
(小学4年生<sup>2</sup>五、小学5年生<sup>2</sup>五、小学6年生<sup>2</sup>五)
- ◆ 2 叙述を基に、登場人物の気持ちを想像したり気持ちを捉えたりすることに課題が見られる。  
(小学4年生<sup>3</sup>一、小学5年生<sup>3</sup>一)
- ◆ 3 目的に応じて、理由や事例を挙げたり引用したりして書くことに課題が見られる。  
(小学4年生<sup>2</sup>二、小学6年生<sup>2</sup>二)

平成28年度佐賀県小・中学校学習状況調査[4月調査]Web 報告書 参照

#### 指導改善のポイント

- ◆ 1 メモや取材した内容などを整理したり複数の事実をまとめたりして書く力を育成するためには、一つ一つの事実に対する自分の考えをもたせるとともに、編集の目的や意図に応じた自分の考えの中心を明確にしながら書かせることが必要である。具体的には、読み手に伝えたいことの中心を明確にさせた上で、取材した事柄や自分で調べた内容の中から必要な情報を取捨選択させ、伝えたいことが読み手に伝わるように整理して記事を書かせる指導が考えられる。また、推敲の際には、選択した情報が、書いた内容の根拠となっているかどうかを検討させることが大切である。
- ◆ 2 叙述を基に、登場人物の気持ちを想像したり気持ちを捉えたりする力を育成するためには、それぞれの登場人物の特徴や性格を押さえて読ませることが必要である。登場人物の特徴や性格がよく表れている行動や会話などは、複数描かれていることが多いため、それらを関係付けて読ませることが大切である。具体的には、登場人物の特徴や性格を押さえた上で、想像したことを話し合ったり書いたりさせる言語活動を取り入れることが考えられる。その際、多様な考えをグループで交流させ、互いの考えのよさに気付かせることも大切である。
- ◆ 3 目的に応じて、理由や事例を挙げたり引用したりして書く力を育成するためには、読み手に伝えたいことがわかるように、具体的な事実を挙げたり引用したりして書かせることが必要である。具体的には、学習課題や単元計画を児童との話合いの中で立てていくことが考えられる。例えば、「書くこと」の単元では、学習課題を児童とともに立てることで、児童に、書く相手や目的、方法を理解させるようにし、学習のゴールを見通して学習に取り組ませることが大切である。また、引用については、テーマや見出しなどに合わせて内容を選択したり、引用した内容が目的や意図に応じているかどうかを判断したりすることができるように指導することが大切である。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「単元で学び、単元で力をつける」をキーワードにした授業づくり、第4・5学年の「学習指導案」や「ワークシート」を提案しています。授業づくりに役立ててください。

## (2) 成果と課題及び指導改善のポイント

### 中学校国語（中学1年生、中学2年生）

#### 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 分かりやすく話すために、話の構成や展開を考慮ができています。  
(中学1年生<sup>1</sup>三、中学2年生<sup>1</sup>三)
- ◇ 資料を活用して分かりやすく説明したり、展開が分かりやすい文章を書いたりするための基礎的な知識が身に付いている。  
(中学2年生<sup>1</sup>一—<sup>3</sup>一)
- ◆1 書くための材料の用い方や構成の工夫について意見を述べることに一部課題が見られる。  
(中学1年生<sup>2</sup>五、中学2年生<sup>3</sup>四)
- ◆2 文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けて要旨を捉えたり、文章全体と部分との関係を考えて内容を理解したりすることに一部課題が見られる。  
(中学1年生<sup>3</sup>二、中学2年生<sup>5</sup>一)
- ◆3 人物の描写や場面の展開について、自分の考えをまとめることに課題が見られる。  
(中学1年生<sup>4</sup>三、中学2年生<sup>4</sup>二)

#### 指導改善のポイント

- ◆1 書くための材料の用い方や構成の工夫について意見を述べる力を育成するためには、書くための材料をどのように整理をしたのか、あるいは文章の構成をどのように工夫したのかについて、書いた文章を互いに読み合い、具体的な記述を基にしてペアやグループで助言し合うような活動に取り組みさせることが必要である。その際には、活動を通して学んだことを記録として残し、自分の表現に生かすようにさせることが大切である。
- ◆2 文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けて要旨を捉える力を育成するためには、段落相互の関係を捉えさせた上で、目的や必要に応じて情報を整理させることが必要である。また、文章全体と部分との関係を考えて内容を理解する力を育成するためには、各段落が文章全体の中で果たす役割を捉える活動を設定することが大切である。例えば、段落の要点を書き抜いたカードを用いて、特定の段落を省いたり、順序を入れ替えたりしながら、段落の構成や順序が、文章全体にどのような説得力をもたらしているのかを考えさせるような活動が考えられる。
- ◆3 人物の描写や場面の展開について、自分の考えをまとめる力を育成するためには、生徒が課題意識をもって、主体的に読み進めることができるようにすることが必要である。そのためには、どのように学習を進めるのかを生徒が意識できるように、例えば、「人物描写の効果について、教材Aと教材Bを比べ読みして、人物表現辞典を作成する」のように、①その単元で指導する事項、②どのような思考操作をさせるのか、③その単元に位置付ける言語活動の3点が分かるような学習課題を示し、学習計画を提示することが必要である。また、単元の導入において、その単元で行う言語活動の具体的な事例を提示するなどして、生徒に学習の目的や必要性をもたせることが大切である。さらに、学習課題に基づいて、単元を短時間で簡潔に構成することや、自分の考えをまとめ、それを他者の意見を参考に再考して記述するような学習活動を継続的に位置付けることも大切である。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「学習課題設定の工夫」や「主体的な学習を促す言語活動の工夫」をキーワードに、「読むこと」の領域の第1・2学年の実践事例や「ワークシート」について提案しています。授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学校4年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,379	56.2	5.3	83.0	63.0	▼

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	55.0	1.9	82.0	62.0	▼
	書く	5	51.6	6.5	81.0	61.0	▼
	読む	5	51.3	6.9	84.0	64.0	▼
	漢字の読み	2	80.0	5.6	85.0	65.0	
	漢字の書き	2	66.4	6.7	85.0	65.0	
	語句に関する知識	4	52.9	5.4	83.8	63.8	▼
評価の観点	①話す・聞く	5	55.0	1.9	82.0	62.0	▼
	②書く	5	51.6	6.5	81.0	61.0	▼
	③読む	5	51.3	6.9	84.0	64.0	▼
	④知識・理解・技能	8	63.0	5.8	84.4	64.4	▼
問題形式	選択式	13	53.5	4.0	84.2	64.2	▼
	短答式	8	64.8	6.8	83.8	63.8	
	記述式	2	39.9	8.0	72.5	52.5	▼
活用	「活用」に関する問題	2	39.9	8.0	72.5	52.5	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
1	一	自分の考えと比較しながら聞く	○					○						64.2	0.3	A	85	65	▼
1	二	目的に応じて、理由や事例を挙げて明確に話す	○					○						60.0	0.3	A	85	65	▼
1	三	適切な言葉遣いで話す	○					○			○			69.6	1.7	B	80	60	
1	四	司会の役割を理解し、話し合いを進める	○					○						40.0	0.9	A	85	65	▼
1	五	話の中心に気を付けて聞き、分からない点や確かめたい点を質問する	○					○			○	○		41.0	6.1	C	75	55	▼
2	一	書こうとすることの中心を明確にして書く	○					○						67.5	3.0	A	85	65	
2	二	目的や必要に応じて、理由や事例を挙げて書く	○					○						49.1	1.3	A	85	65	▼
2	三	自分の考えを明確に表現しているか検討し、よりよい表現に書き直す	○					○						31.2	15.4	B	80	60	▼
2	四	考えを明確に記述しているか検討する	○					○						71.4	3.2	A	85	65	
2	五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く	○					○			○	○		38.8	9.8	D	70	50	▼
3	一	叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む	○					○						45.9	2.6	A	85	65	▼
3	二	叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える	○					○						69.9	3.8	B	80	60	
4	一	読む目的に応じて中心となる語を捉える	○					○						56.9	10.2	A	85	65	▼
4	二	事実と意見を区別して読む	○					○						51.3	9.2	A	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の書き	漢字の読み	漢字の書き	漢字の読み	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く				③読む	④知識・理解・技能	選択式	
4	三	中心となる語や文を捉えて要約する		○									32.4	8.9	A	85	65	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「絵画」																
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「重ね」		○									86.4	4.6	A	85	65	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「都市」		○									73.5	6.6	A	85	65	
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「角」																
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「暑い」		○									68.3	6.6	A	85	65	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「洋服」		○									64.6	6.8	A	85	65	▼
5	三1	主語と述語の関係を理解する			○								66.7	4.7	A	85	65	
5	三2	主語と述語の関係を理解する			○								31.9	5.2	A	85	65	▼
5	四	へんについて理解する			○								86.3	5.4	A	85	65	◎
5	五	「さげる」という言葉がもつ意味を理解し、適した使い方を選択する（吊す）（退ける）			○								26.5	6.5	B	80	60	▼

[表2] 小学校5年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,155	66.0	4.4	82.2	62.2	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	71.7	1.7	81.0	61.0	
	書く	5	62.9	1.9	80.0	60.0	
	読む	5	50.6	5.5	81.0	61.0	▼
	漢字の読み	3	85.4	4.3	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	61.3	11.2	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	6	69.5	4.3	83.3	63.3	
評価の観点	①話す・聞く	5	71.7	1.7	81.0	61.0	
	②書く	5	62.9	1.9	80.0	60.0	
	③読む	5	50.6	5.5	81.0	61.0	▼
	④知識・理解・技能	12	71.4	6.0	84.2	64.2	
問題形式	選択式	16	69.1	2.2	83.8	63.8	
	短答式	8	67.1	7.8	83.8	63.8	
	記述式	3	47.0	6.8	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	3	47.0	6.8	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類		十分達成
1	一	目的や意図に応じて、話の構成を工夫しながら話す	○					○						○	68.5	0.1	A	85	65	
1	二	話し手の意図を捉える	○					○						○	70.5	0.3	A	85	65	
1	三	聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問する	○					○					○	○	67.5	4.0	C	75	55	
1	四1	場に応じて、敬体と常体とを使い分ける	○					○						○	71.3	3.7	B	80	60	
1	四2	話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言する	○					○						○	81.1	0.5	B	80	60	◎
2	一	目的や意図に応じて、内容を詳しく書く	○					○						○	67.9	0.3	A	85	65	
2	二	目的や意図に応じて、記事に見出しを付ける	○					○						○	52.5	0.5	A	85	65	▼
2	三	自分の考えが明確になるように、文章を構成する	○					○						○	81.7	0.5	B	80	60	◎
2	四	表を用いて自分の考えが伝わるように書く	○					○						○	87.6	0.7	A	85	65	◎
2	五	目的や意図に応じて、取材した内容を整理して記事を書く	○					○					○	○	25.1	7.4	E	65	45	▼
3	一	叙述を基に、登場人物の気持ちを捉える	○					○						○	42.5	1.3	A	85	65	▼
3	二	登場人物の心情についての描写を捉える	○					○						○	70.0	1.8	A	85	65	
3	三	登場人物の相互関係を捉える	○					○					○	○	25.3	11.8	B	80	60	▼
4	一	概観しながらパンフレットを読む	○					○						○	66.7	3.6	A	85	65	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み 漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
4	二	目的に応じて、パンフレットの内容とグラフから読み取れることを関係付けてまとめる	○					○			○	○	48.4	9.1	D	70	50	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「配役」		○					○				84.1	5.1	A	85	65	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「省く」		○					○				79.4	5.3	A	85	65	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「花束」		○					○				92.5	2.5	A	85	65	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「整った」			○					○			76.2	11.0	A	85	65	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「覚ます」			○					○			63.1	10.0	A	85	65	▼
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「印刷」			○					○			44.6	12.8	A	85	65	▼
5	三1	修飾と被修飾の関係を理解する				○				○			25.4	3.8	B	80	60	▼
5	三2	修飾と被修飾の関係を理解する				○				○			53.9	4.2	B	80	60	▼
5	四1	慣用句の意味を知る「心が通う」				○				○			73.6	4.3	A	85	65	
5	四2	慣用句の意味を知る「息をぬく」				○				○			78.0	4.4	A	85	65	
5	五1	言葉の使い方を意識し、正しく使う「なかなか」				○				○			92.5	4.5	A	85	65	◎
5	五2	言葉の使い方を意識し、正しく使う「そろそろ」				○				○			93.3	4.5	A	85	65	◎

[表3] 小学校6年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,411	70.2	3.3	81.6	61.6	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	74.2	0.7	80.0	60.0	
	書く	5	49.1	4.4	79.0	59.0	▼
	読む	5	61.4	4.8	80.0	60.0	
	漢字の読み	3	93.9	1.4	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	74.0	6.6	85.0	65.0	
	語句に関する知識	4	81.7	2.5	83.8	63.8	
評価の観点	①話す・聞く	5	74.2	0.7	80.0	60.0	
	②書く	5	49.1	4.4	79.0	59.0	▼
	③読む	5	61.4	4.8	80.0	60.0	
	④知識・理解・技能	10	83.0	3.4	84.5	64.5	
問題形式	選択式	13	72.9	1.6	83.1	63.1	
	短答式	9	68.9	4.6	83.9	63.9	
	記述式	3	62.0	6.9	68.3	48.3	
活用	「活用」に関する問題	3	62.0	6.9	68.3	48.3	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類		十分達成
1	—	メモの内容を比較し、目的や意図を明確にする	○					○						○	91.4	0.1	A	85	65	◎
1	二1	目的に応じて、話の構成を工夫する	○					○						○	50.3	0.3	B	80	60	▼
1	二2	アドバイスの意図を聞き取り、自分の考えと比べまとめる	○					○						○	84.8	1.6	A	85	65	
1	三	話の聞き方を工夫する	○					○						○	67.2	0.3	B	80	60	
1	四	事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する	○					○				○	○	○	77.4	1.1	D	70	50	◎
2	—	目的や意図に応じ、リーフレットに見出しを書く	○					○						○	63.8	0.2	B	80	60	
2	二	目的に応じて、必要な内容を適切に引用して書く	○					○						○	22.2	4.4	B	80	60	▼
2	三	「事実」と自分の感想、意見などを区別して書く	○					○						○	44.9	5.5	A	85	65	▼
2	四	表現の効果などについて確かめ、工夫する	○					○						○	72.6	1.3	A	85	65	
2	五	複数の事実をまとめて、それに対する自分の考えを書く	○					○					○	○	42.1	10.5	E	65	45	▼
3	—	場面と場面とを関係付けて読む	○					○						○	84.1	1.2	A	85	65	
3	二	場面についての描写を捉える	○					○						○	52.7	1.9	B	80	60	▼
3	三	登場人物の心情を捉える	○					○					○	○	66.5	9.2	D	70	50	
4	—	文章の内容を的確に捉える	○					○						○	54.1	3.5	A	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み 漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
4	二	文章の重要な点を、表現の仕方に合わせてまとめる		○					○		○		49.7	7.9	B	80	60	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「唱える」			○						○		90.5	1.6	A	85	65	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「預ける」			○						○		93.7	1.2	A	85	65	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「招待」			○						○		97.3	1.3	A	85	65	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「置く」				○					○		81.6	8.3	A	85	65	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「迷う」				○					○		81.3	4.5	A	85	65	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「往復」				○					○		59.2	7.0	A	85	65	▼
5	三	熟語の構成について理解する							○		○		74.3	2.3	B	80	60	
5	四	場面に応じ、敬語を適切に使う							○		○		93.6	2.1	A	85	65	◎
5	五1	指示語の役割を理解する							○		○		79.8	2.8	A	85	65	
5	五2	指示語の役割を理解する							○		○		79.1	2.9	A	85	65	

[表4] 中学校1年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,152	68.0	5.5	70.3	50.3	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	71.0	2.2	68.0	48.0	◎
	書く	5	62.7	4.1	68.0	48.0	
	読む	5	61.5	7.1	68.0	48.0	
	漢字の読み	5	78.9	3.9	75.0	55.0	◎
	漢字の書き	5	63.1	13.8	70.0	50.0	
	語句に関する知識	6	70.4	2.7	72.5	52.5	
評価の観点	①話す・聞く	5	71.0	2.2	68.0	48.0	◎
	②書く	5	62.7	4.1	68.0	48.0	
	③読む	5	61.5	7.1	68.0	48.0	
	④知識・理解・技能	16	70.8	6.5	72.5	52.5	
問題形式	選択式	12	73.1	0.9	71.7	51.7	◎
	短答式	14	69.7	7.6	72.1	52.1	
	記述式	5	51.2	10.8	62.0	42.0	
活用	「活用」に関する問題	3	49.0	12.2	60.0	40.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
1	一	話題を決め、材料を整理して話を構成する	○					○						53.6	0.1	B	70	50	
1	二	場に応じた言葉遣いで話す	○					○						61.5	0.1	B	70	50	
1	三	分かりやすく伝えるために話の構成を考える	○					○						86.5	0.7	B	70	50	◎
1	四	必要に応じて質問し、自分の考えとの共通点や相違点を整理する	○					○						95.1	0.4	B	70	50	◎
1	五	全体と部分に気を付けて内容を整理し、話すためのメモを構成する	○					○			○	○		58.0	9.4	D	60	40	
2	一	目的や意図に応じて構成を考える	○					○						58.8	1.0	B	70	50	
2	二	書いた文章を読み返し、語句の用法を確かめて書く	○					○			○			65.3	6.3	B	70	50	
2	三	伝えたいことの根拠を明確にする	○					○						75.4	0.6	A	75	55	◎
2	四	書いた文章を読み返し、叙述の仕方を確かめて読みやすく分かりやすい文章にする	○					○			○			58.5	6.9	C	65	45	
2	五	材料の用い方について意見を述べる	○					○			○	○		55.7	6.0	D	60	40	
3	一	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する	○					○						82.4	0.7	B	70	50	◎
3	二	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、要旨を捉える	○					○			○			50.6	10.7	C	65	45	
4	一	情景描写に注意し、視点を定めて読む	○					○						67.5	1.3	A	75	55	
4	二	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する	○					○						73.6	1.4	B	70	50	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類		十分達成
4	三	登場人物の言動の描写に注意して読み、内容を理解した上で人物像について考える	○					○			○	○	33.3	21.3	D	60	40	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「冷ます」		○					○		○		97.0	0.7	A	75	55	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「試みる」		○					○		○		82.2	3.9	A	75	55	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「徹収」		○					○		○		46.2	7.9	A	75	55	▼
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「羊毛」		○					○		○		71.7	5.7	A	75	55	
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)「七夕」		○					○		○		97.6	1.2	A	75	55	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「折れた」			○					○	○		85.3	8.6	B	70	50	◎
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「疑い」			○					○	○		60.7	23.7	B	70	50	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「努める」			○					○	○		30.9	15.4	B	70	50	▼
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「恩義」			○					○	○		48.5	15.9	B	70	50	▼
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「呼吸」			○					○	○		89.8	5.2	B	70	50	◎
5	三	文節の区切りを理解する				○					○		82.7	1.2	B	70	50	◎
5	四	文の中で語句や語彙を正しく使う				○				○	○		96.0	0.9	A	75	55	◎
5	五	文の中で語句や語彙を正しく使う				○					○		59.9	1.1	B	70	50	
5	六1	日本の文学には様々な種類の作品があることを理解する				○					○		66.5	2.0	A	75	55	
5	六2	歴史的仮名遣いについて理解する				○					○		88.2	3.9	A	75	55	◎
5	六3	古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いを想像する				○					○		29.1	7.2	B	70	50	▼

[表5] 中学校2年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,324	63.6	5.7	69.4	49.4	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	75.9	3.8	67.0	47.0	◎
	書く	5	55.5	3.5	68.0	48.0	
	読む	5	43.1	6.4	68.0	48.0	▼
	漢字の読み	5	73.3	6.6	70.0	50.0	◎
	漢字の書き	5	68.7	12.6	70.0	50.0	
	語句に関する知識	8	64.4	2.8	71.9	51.9	
評価の観点	①話す・聞く	5	75.9	3.8	67.0	47.0	◎
	②書く	5	55.5	3.5	68.0	48.0	
	③読む	5	43.1	6.4	68.0	48.0	▼
	④知識・理解・技能	18	68.1	6.6	70.8	50.8	
問題形式	選択式	16	62.1	1.3	71.3	51.3	
	短答式	13	69.2	8.9	70.0	50.0	
	記述式	4	51.2	12.8	60.0	40.0	
活用	「活用」に関する問題	4	51.2	12.8	60.0	40.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
1	一	目的に応じて資料を活用し、分かりやすくする	○					○						88.9	0.3	A	75	55	◎
1	二	資料を活用して説明する	○					○				○	○	76.8	6.0	C	65	45	◎
1	三	話の論理的な構成や展開を意識して話す	○					○						82.2	0.4	B	70	50	◎
2	一	話の事実と意見を聞き分け、意見の共通点をまとめる	○					○				○		58.9	5.4	C	65	45	
2	二	提案を検討して、自分の考えをまとめる	○					○				○	○	72.7	6.9	D	60	40	◎
3	一	事実や意見を相手に効果的に伝えるために工夫して書く	○					○						76.5	0.8	B	70	50	◎
3	二	書いた文章を読み返し、語句の使い方に注意して、分かりやすい文章にする	○					○						52.9	0.8	B	70	50	
3	三	具体例を加えて、感想を分かりやすく伝える	○					○				○	○	33.5	13.7	E	55	35	▼
3	四	伝えたいことを明確にして、構成を工夫した文章のよさを伝える	○					○						46.0	1.2	B	70	50	▼
3	五	材料を集める方法について理解する	○					○						68.4	1.2	A	75	55	
4	一	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する	○					○						67.4	1.1	B	70	50	
4	二	場面の展開について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる	○					○				○	○	21.7	24.4	D	60	40	▼
4	三	登場人物の言動の意味を捉え、内容を理解する	○					○						47.2	1.5	B	70	50	▼
5	一	文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する	○					○						38.7	2.6	B	70	50	▼

設問別集計結果

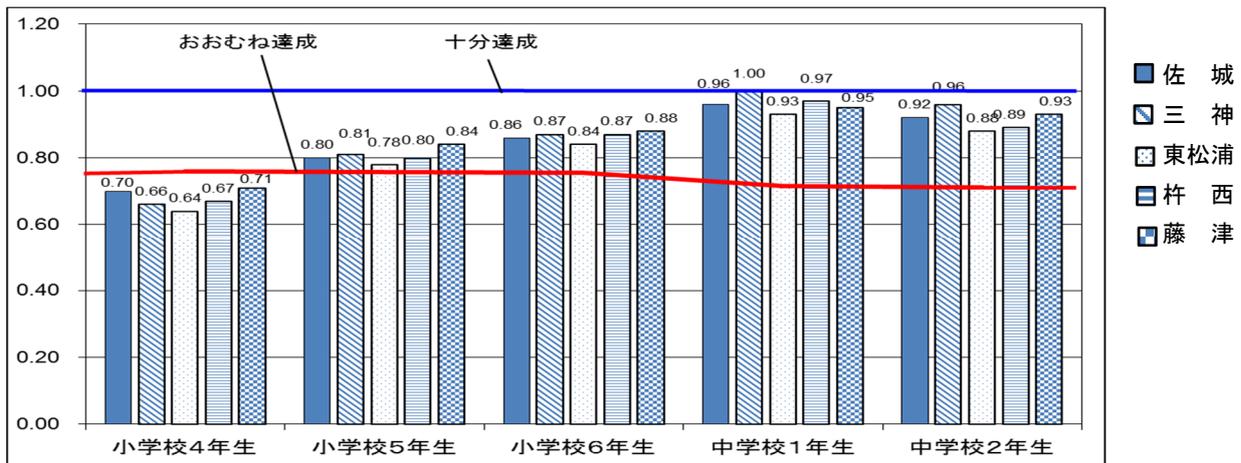
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の書き	漢字の読み	漢字の書き	漢字の読み	漢字の書き	漢字の読み	漢字の書き				漢字の読み	漢字の書き	問題分類	
5	二	表現の特徴について、その効果を捉える		○						○			40.2	2.2	B	70	50	▼
6	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「驚嘆」			○						○		47.5	10.8	B	70	50	▼
6	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「趣」			○						○		73.4	7.9	B	70	50	◎
6	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「継承」			○						○		72.4	6.4	B	70	50	◎
6	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「推移」			○						○		75.1	7.1	B	70	50	◎
6	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「演奏」			○						○		98.3	0.8	B	70	50	◎
6	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「航海」				○							56.6	15.5	B	70	50	
6	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「激しい」				○							87.0	7.4	B	70	50	◎
6	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「展覧」				○							52.8	14.1	B	70	50	
6	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「険しい」				○							74.8	15.1	B	70	50	◎
6	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「看護」				○							72.2	11.2	B	70	50	◎
6	三	単語の類別について理解している					○						23.7	1.4	B	70	50	▼
6	四1	文の中の文の成分の関係について理解している						○					41.4	1.4	B	70	50	▼
6	四2	文の中の文の成分の関係について理解している							○				48.9	1.7	B	70	50	▼
6	五1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(意味)「一線を画す」											88.1	1.3	B	70	50	◎
6	五2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(意味)「そしらぬ顔」											91.5	1.3	A	75	55	◎
6	六	行書の書き方を理解する											91.3	1.5	A	75	55	◎
6	七1	文語のきまりを知る											68.7	7.0	A	75	55	
6	七2	描かれている人物像を読み取る											61.9	6.8	B	70	50	

#### (4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況は、5地域とも、小学校4年生を除く、小学校5年生から中学校2年生までで「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ12]
- 県内5地域における学年別教科正答率の対県比は[表6]のとおりで、小学校4年生の地域差が最も大きい。また、4月調査と比べて中学校1・2年生で地域差が拡大している。

[グラフ12] 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別教科正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比( 地域教科正答率/県教科正答率 )					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学校4年生	H28[12月]	1.04	0.98	0.95	0.98	1.05	▲ 0.10
	H28[4月]	-	-	-	-	-	-
小学校5年生	H28[12月]	1.00	1.00	0.97	1.00	1.04	0.07
	H28[4月]	1.00	1.02	0.96	1.00	1.03	0.07
小学校6年生	H28[12月]	1.00	1.01	0.98	1.01	1.02	縮 0.04
	H28[4月]	1.02	1.00	0.95	0.99	1.03	0.08
中学校1年生	H28[12月]	1.00	1.03	0.97	1.01	0.99	拡 0.06
	H28[4月]	1.01	1.01	0.97	1.00	1.01	0.04
中学校2年生	H28[12月]	1.00	1.05	0.96	0.97	1.01	拡 0.09
	H28[4月]	1.00	1.04	0.97	0.98	1.00	0.07

※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成28年度[4月調査]より地域差が縮小した教科を、「拡」は拡大した教科を示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町